

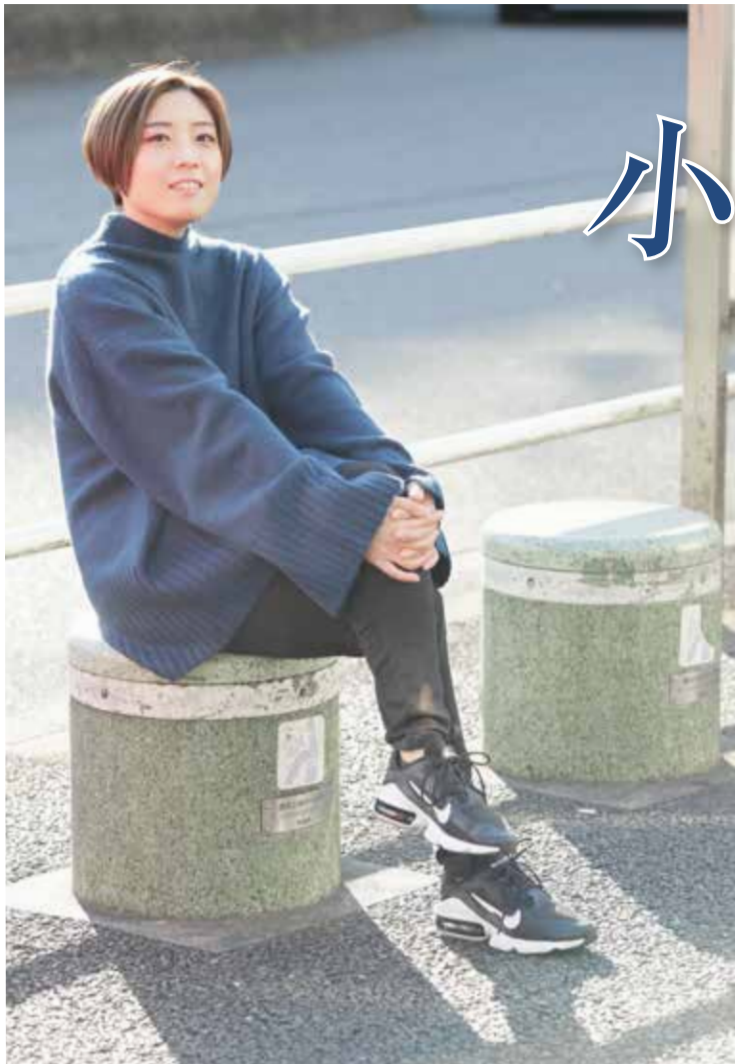
Close-up Interview (12月号 表紙の顔)

## 小林 あゆみ

AYUMI  
KOBAYASHI「優勝を逃して悔しいと感じなかった  
自分自身が情けなく、悔しかった…」

BS日テレ『P★League』の視聴者なら、この2年間で優勝3回、通算では優勝5回・準優勝4回の戦績を誇る“ファイナリスト・小林あゆみ”の姿はすっかり見慣れていることだろう。しかしJPBA公式戦においては、先日の『APA PRESENTS KING'S&QUEEN'S』(以下「APAカップ」と呼称=3面参照)が、実に8年ぶりの優勝決定戦進出だった。惜しくも優勝はならなかったが、“華麗なる左腕”の復調を喜んだファンは多い——。

(PHOTO: 馬場高志)



## 「1対1の勝負は得意」

——APAカップで準優勝。公式戦でファイナリストとなったのは、3勝目を挙げた2013年の宮崎プロアマオープン以来でしたが、テレビ決勝前の心境は？

**小林** とりあえず3位決定戦はどうかして勝ちたいと思っていましたが、「せっかく残ったんだから楽しく投げよう」と。あまり緊張はしなかったですね(笑)。

——P★リーグではこの2年で3回優勝していて、マッチゲームに強い印象があります。

**小林** 自分でも、昔から1対1の勝負は得意だと思っていて、周りの人からも「いつも1ゲームマッチだったらいいのにね」と言われるのですが、公式戦ではなかなかそこまでどり着けなくて…。

——3位決定戦の相手は、すでに2勝している17歳の新人・中島瑞葵プロでした。

**小林** ノッてくると怖いという思いはありましたが、プロのトーナメントでの経験値は私のほうがまだ高いはずなので、特別意識はしなかったです。

——3フレまで⑦ピンが飛ばずに残ったせいか、4フレでボールチェンジしました。

**小林** しましたね。予選から⑦ピンが飛ばないゲームはあったのですが、これまででこう攻め過ぎて失敗することが多かったの、そのときは「我慢していれば何とかかな」と自分に言い聞かせて動きませんでした。勝負どころの見極めが少しは上達したんじゃないかと(笑)。

——ゲームは中島プロが6フレ

からの4連発でリードしましたが、小林プロは8フレ②④⑦、9フレ①③⑦⑨と難しい残りピンを丁寧に払って逆転につなげました。

**小林** あそこはキツかったですね(苦笑)。

——で、10フレは中島プロが1投目①②④を残して、これをまさかのカバーミス。ストライク必須の小林プロの2投目は、見ていて痺れました。

**小林** ライン的に「ここを投げれば大丈夫」というのは分かっていたけど、最近は投球がブレることが多いので、そこに投げられるかどうかだけを考えていました。1投目は内ミスしてのラッキーストライク。でも2投目はしっかりラインに乗せられたので「これで飛んでくれなかったらしょうがない」と。相手のミスもあって「きょうは運も味方してくれている」と思いましたね。

## 「課題はメンタル面」

——優勝決定戦は、姫路プロが8フレまでダッチマン状態。小林プロは3フレの②⑦ベイスプリットをカバーミスしたものの、5フレから3連発を決めて並走していました。結果的には9フレでボールを替えてストライクを決めた姫路プロが逃げ切りましたが、小林プロも10フレパンチアウトなら、さらに際どい勝負になっていました。

**小林** 10フレの1投目はどうしてもストライクを持ってきて、ピンを飛ばそうとボールを転がしにいったら、親指が抜けずにそのまま回ってしまっただけで、やっぱり優勝を意識してしまったことが大きいと思います。

す。もちろん麗さんが強いのは分かっているけど、優勝決定戦は“らしくない”感じのゲーム展開だったので、「これはまだチャンスがある」と思って、最後まで諦めずに投げたんですけど(苦笑)。

——直前に左投げ同士の男子優勝決定戦がありました、その影響はあったと思いますか？

**小林** それはほとんど感じなかったけど、ピンが飛ばなくなったという部分で、男子はウレタンボールを中から投げるので「先が若干甘くなったかな」とか「私の軸がブレてきたのかな」などと迷って足踏みしちゃったところはあります。



▲以前より体のキレが増した印象の小林。周囲の人には「フォームが大きくなった」と言われるそう

——終わってしばらくして、目に光るものが見えました。あれは悔し涙？

**小林** たぶんそうなんでしょうけど…正直、終わった直後はそこまで悔しく感じてなくて、そんな自分が悔しかったんです。表彰式の前に、谷口会長に「気持ちのどこかで満足しているだろう」と言われて「あ、そうなんだ私」って気づいたときにスイッチが入って、涙が止まらなくなりました。優勝

を目の前にして、それを逃して悔しいと感じなかった自分自身の情けなさや「ここまできたら優勝してほしい」と最後まで応援してくれた方たちに申し訳ないという気持ちなどが混ざり合っていました。

——しかし、少なくともボウリング自体は上向きになってきたという手応えはつかんだのでは？

**小林** 投球フォーム的には、自分ではまだまだ足りないと思うところもありますが、半面アベレージはだんだんと上がってきているので、あまりフォームを気にし過ぎるのもどうかかなと思って、最近は「今の自分にできるボウリングをすればいい」と考えるようにしています。いちばんの課題は、メンタルの持って行き方でしょうね。

## 「今年が全日本が分岐点」

——APAカップで優勝していれば自動的に来季の第1シードが確定していましたが、コロナ禍の特例で24人までシード枠が広がられて、まだその圏内にいる。残り2戦が大事ですね。

**小林** 大岡産業レディースの会場(ボウルアロー松原店)は去年すごく難しく感じて(総合70位で予選落ち)、相性が悪いというイメージがついてしまっていますが、上位に入れなくてもポイントはしっかり取れる順位にはいたいと思う。勝負は全日本のほうですね。

——姫路プロがコンスタントに勝ちだしたのは30歳を過ぎてから。小林プロも次に勝ち切るところまでいけば、案外ボンボンといけそうな気がします。

**小林** 流れをつかみたいですね。やっぱりデビューしたころに比べると、ハングリー精神が薄れてきちゃってると思うので。当時まだ日本で投げていたウエンディ(・マックファソン)プロが「この先、この子(小林)が何勝するか楽しみだ」と言ってたよ」という話がある方

から聞いて、すごくうれしかった。思えば当時はすごく負けん気が強くて、それが試合にも出ていた気がします。

——左投げの最多勝は、木村和美プロ(5期)の19勝。試合数が多かった時代ですが、小林プロもぜひ2ケタの優勝を目指してください。

**小林** 勝っていたころがそうなんですけど、流れに乗ってしまえば自信はあります(笑)。今ようやく流れに乗り始めたところで、近いうちにもう一度ラウンドロビンくらいまで残れば、確実に自信を取り戻せると思う。完全に自信をなくして、ボウリングが楽しくない、投げるのもイヤだ、笑顔も作れないという時期もありましたから。たぶん頑張らなきゃいけないのは今。自分にとっては今年が全日本が大きな分岐点になると思っています。

取材協力: トミコシ高島平ボウル

小林あゆみプロと一緒に投げよう!  
トミコシ高島平Bの年末イベント

●12月25日  
クリスマスチャレンジマッチ

●12月28日  
年末マラソンボウリング大会

●12月29日  
TTBお客様感謝祭(会員限定)



こばやし・あゆみ/1989年11月19日生まれ、栃木県出身。159㌢、左投げ。血液型B。2011年プロ入り(44期/ライセンスNo.478)。優勝3回。20/21年度ポイントランキング23位、アベレージ204.40(JPBA★SSSカップ終了現在)。P★League優勝5回(シーズン優勝1回)。トミコシ高島平ボウル所属(副支配人)。